

奈文研

ニュース

No.38

sep.2010

NABUNKEN NEWS



独立行政法人 国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市二条町2丁目9-1
<http://www.nabunken.jp/>

特別展『天平びとの声をきく』開催

このたび、平城宮跡資料館で、平城宮跡発掘調査50周年記念「天平びとの声をきくー地下の正倉院・平城宮木簡のすべてー」を開催します。

平城宮跡では、50年の長きに渉り継続的・計画的な学術調査がおこなわれてきました。全体の約1/3が調査され、多くの成果を上げてきています。そのなかでも、木簡の発見は非常に重要です。無言だった遺跡が、言葉を持って語り出したのです。

今回、発掘調査50周年を記念して、その言葉を多くの方に、大いに聞いていただくのではないかと、ということでこの特別展を企画しました。会期は9月25日から11月7日までで（展示替えをおこなう10月12・26日は特別展は休み。通常展示はご覧いただけます。）、各会期ごとの出品点数はそれぞれ約100点、延べ約300点の木簡を展示します。木簡の展示としては、空前の規模の展覧会です。

教科書で見たあの木簡の実物を見ることができる。これまで「話には聞いていた」木簡に出会える。天平びとたちの、生の息吹に触れることができる。

平城宮の木簡は、平城宮や平城京を語るだけではありません。各地から人も、物資も、情報も平城宮に集められていました。平城宮の木簡の声を聞くことは、奈良時代の全国各地の様子を耳にすることにもなります。また、木簡だけでは語り尽くせない部分は、土器や瓦といった面々にも登場してもらいます。

それだけではありません。どうやって読みにくい木簡を読むのか、といった内容も含めて、出土から調査研究にいたる一連の流れを感じていただき、時には来館者の皆様に参加していただける展示構成になっています。展示を最後までご覧いただければ、もはや木簡研究者の仲間入りをしていただけることでしょう。

そして、資料館を一步出れば、そこは木簡が埋まっていた、そしてまだたくさん木簡が埋まっている平城宮跡です。そこは木簡に言葉を託した、天平びとたちも暮らし働いた場所です。この展覧会をご覧になった皆さんは、平城宮跡の風のそよぎの中に、かすかに天平びとの声を、女官の衣ずれの音を、聞くことができるはずです。

木簡は、非常に弱いので、普段は実物を展示できません。ぜひ、この機会に生の天平びとの声を聞きに、また彼等の眺めた景色をご覧に、お越しいただければと思います。

なお、10月9日には、展示に関する特別講演会を予定しています。さらに、10月3・17・31日には、研究員によるギャラリートークも予定されています。実際に、木簡の調査・研究にあたっている研究員ならではの視点からの解説や、こぼれ話が満載です。こちらも、ぜひお運び下さい。

(都城発掘調査部 馬場 基)



天平びとの一例